

クビアカツヤカミキリ

の駆除と情報提供にご協力ください

栃木県南部を中心に、特定外来生物クビアカツヤカミキリの発生が確認されています。幼虫は、**モモ、スモモ、ウメ、サクラ**などに寄生して木の内部を食い荒らします。被害が進むと樹木が弱り枯死してしまいます。

被害の拡大を防ぐために、情報提供をお願いします。写真を参考に、成虫や、樹木に大量のフラス（幼虫のフンと木くず）を見つけた場合は、**市役所や町役場または下記まで**ご連絡ください。

また、まん延防止のため、**成虫を見つけた場合は捕殺してください**。よろしくお願いします。

▶クビアカツヤカミキリの特徴

- ・成虫は体長約3～4 cmです。
- ・全体に**光沢のある黒色で、赤色の背中**が特徴です。
- ・成虫は**6月上旬から8月上旬**に現れます。
- ・成虫は捕まえると刺激臭を発することがあります。
- ・幼虫が寄生した木からは、大量のひき肉状のフラスが排出されます。



幼虫の食害により排出された大量のフラス



クビアカツヤカミキリ成虫

〈お問合せ先〉

お住いの 市役所・町役場

栃木県自然環境課自然保護担当

栃木県県南環境森林事務所環境企画課

電話：028-623-3207

電話：0283-23-1441

クビアカツヤカミキリの被害

- ・モモ、スモモ、ウメ、**サクラ**などに加害します。
- ・幼虫が樹木に入り込むと、木の内部を食い荒らし枯らしてしまいます。
- ・幼虫が寄生した木からは、3月から9月頃まで**大量のひき肉状のフラス**（木くずとフンの混ざったもの）が排出されます。
- ・メスの産卵数は極めて多く、在来のカミキリムシに比べて**繁殖力が高い**です。



幼虫の食害のあとと脱出孔



食害された木の内部

クビアカツヤカミキリの防除方法

- ・ **成虫を見たらその場で捕殺する。**
- ・ 幼虫の食入孔（フラスの出ている穴）を発見したら、フラスを掻き出し針金で刺殺するか薬剤を注入して駆除する。
- ・ 被害拡散防止と新たな産卵防止のために、羽化期から産卵樹（6月から8月）にネット（防鳥ネットとして使用される目開き4mm以下のもの）を幹に密着させないように上部のみひもで固定して巻き、定期的に見回って羽化した成虫を捕殺する。
- ・ 被害が進行してしまった木は虫の駆除が困難なため、伐採する。伐採した木や、伐根した切り株は被害拡大を防ぐため、放置せずに焼却処分やチップ化する。
- ・ 切り株が残ってしまった場合は、幼虫が内部にいる可能性があるため、ビニールシート等で覆い、成虫が外に出ないようにする。

特定外来生物

- ・ クビアカツヤカミキリは平成30年1月に外来生物法による特定外来生物に指定されました。これに伴い、飼育や運搬、譲渡や屋外へ放つことなどが規制されます。